

第1章

危機管理のプロに聞く! 企業における地震対策

大規模地震に対して、企業はどのように取り組んだらよいのか。心構えや防災・減災に向けてのポイントを、相鉄ビルマネジメントの荒巻部長に伺いました。

大規模地震への備えは企業(経営体)の責任

大規模地震災害は企業にとって最大最悪の事業リスクです。特に地震災害の危険度が高い都市部では、同時に被災しやすい弱点が数多くあります。また、駅や商業施設では、お客様が多数いる可能性があり、施設・設備などの安全対策をおろそかにすると大きな被害が発生した際に、社会から厳しい批判にさらされ、損害賠償を請求されることも考えられます。

大規模地震災害は大規模経済災害であること、地震対策投資よりも災害復旧費用のほうが高くなることを認識し、事前の防災・減災対策に取り組むことをお勧めします。

地震対策投資 < 災害復旧費用

※予防力=減災力があれば被害が少なく回復が早い

防災・危機管理の重要なキーワード!

防災・危機管理の目的はダメージコントロール

企業における地震対策などはダメージコントロールのためです。大規模地震などの緊急事態によって被る被害をいかに最小限にとどめられるか、人的・物的被害をはじめ、社会的・経済的な損失をいかに回避・抑止させられるかが重要です。

防災の失敗要因は「情報不足、慢心、思い込み」

ダメージコントロールを的確に行うためには、さまざまな危機を想定し、事前・緊急・事後の対策を総合的な視点で確立しておく必要があります。反対に、防災・危機管理における失敗の主な要因は、「情報不足、慢心、思い込み」です。大規模地震など災害発生時には、この3点に留意してください。

空振りは許されるが、見逃しは許されない

危機に対処する行動決定の3原則(プロアクティブの原則)を紹介します。これは、①疑わしいときは行動する。②最悪の事態を想定して行動する。③空振りは許されるが、見逃しは許されない——です。

これらのキーワードから分かるように災害対策は先手必勝。正確な情報を集め空振りを恐れず取り組むことで大規模地震などによるダメージをコントロール(減災)することができます。

相鉄ビルマネジメント
業務部 部長

荒巻 照和さん

プロフィール

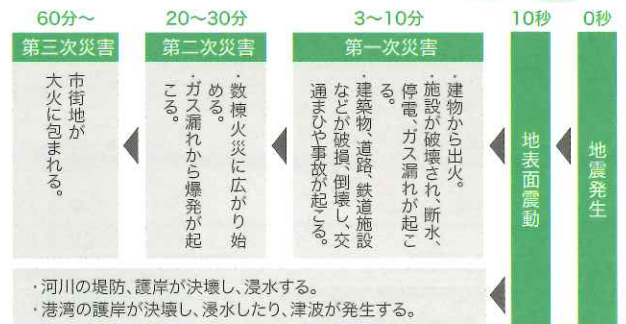
昭和51年に横浜市消防吏員に任命されて以来、横浜市をはじめ、自治省(現総務省)や文部科学省などの防災・危機管理対策部門で活躍。平成26年3月に横浜市消防局を退任、同年4月に相鉄ビルマネジメントに入社するとともに、横浜駅西口共同防火防災管理協議会事務局長となる。



地震対策の基本は、意識を変えること!

皆さんは、震度7や震度6強クラスの大規模地震から生き残る自信はありますか? 肝心なのは地震の怖さを知り、意識を変えることです。一番怖いのは何も考えないこと。「誰かがやっているから大丈夫」「マニュアルに従えば大丈夫」では想定外の事態に対処できません。自分の身は自分で守ることを普段から考えて行動してください。下図は都市で災害が拡大していくイメージです。地震発生からどう行動すべきか一度考えてみましょう。

《大規模地震発生における災害のイメージ》



どのように行動しますか?

職場の災害危険度をチェックしよう!

地震対策は自分がいる場所の災害危険度を知ることから始まります。皆さんの職場と照らし合わせてチェックしてみましょう。

- 建物・設備などの耐震性は十分に確保できていますか。
- 現在、どこか部署に何人の社員が勤務中であるか詳細を把握できていますか。
- 施設内において、死傷者が発生しそうな危険な場所を把握し、必要な改善策を行っていますか。
- 屋内から屋外へ安全な経路を使用して混乱なく避難できますか。
- 火災発生や有害・危険物質など漏えいの危険性がある場所を把握し、必要な対策を行っていますか。
- 社員との連絡手段(電話番号)を確実に把握し、安否確認方法を確立できていますか。
- 社員が帰宅困難者とならない対策(職場にとどまるなど)を考えていますか。
- 重要なデータのバックアップを徹底していますか。
- 登記所のデータ消滅を想定して権利証明できる書類等の管理を徹底していますか。

対応ができていないポイントがありましたら、ぜひ改善に向けて取り組んでみてください。対応が難しい項目は「できない」といって諦めず、次善の策を工夫してみましょう。安全・安心と危険・不安は表裏一体の関係であり、そのバランスなくして経営体の成長(進化)はないといえます。

第3章

実践! 大地震災害から身を守るヒント

大地震が発生した場合は、まず自分の身を守ることを優先してください。身を守るためには、地震対策への意識を持ち、事前の備え、地震発生時の状況判断が重要です。第3章では、大地震発生前、発生中、発生後の3つの段階に分けて、安全行動のポイントをご紹介します。

参考資料:『減災行動のススム』(横浜市消防局) / 写真提供: 相鉄ビルマネジメント 荒巻 照和さん

地震発生前



☑ 家の中の危険箇所をチェックし、安全対策をとろう

リビング

- テレビはテレビ台などに固定し、テレビ台のキャスターが動かないように固定する
- つり下げ式の照明器具はチェーンで固定する
- 家具と天井の間に突っ張り棒を入れて固定する



テレビの固定はホームセンターなどで売っている荷造り用のマジックテープを利用できます。



突っ張り棒が天井を突き抜けてしまうことがあるので、板を1枚入れることで強度が増します。

キッチン

- 食器棚は固定し、食器の飛び出し防止措置をとる
- ガラス戸には、飛散防止フィルムを貼る
- 観音開きの扉には止め金具などで簡単に開かないようにする
- 冷蔵庫や電子レンジは突っ張り棒などで固定する



食器の飛び出し防止には、滑り止めシートを適当な大きさに切って、面で受け止められるようにすることもできます。



観音開きの扉の固定には、防災グッズの金具でもよいですが、ナイロンロープが汎用性もあり安く購入できて便利です。



冷蔵庫や食器棚の固定は、天井との間に段ボール箱を入れることで対応可。板などで隙間がでないようにします。

寝室

- 寝室になるべく家具を置かない
- 寝ている側に家具が倒れてこないよう、位置を工夫する
- ドア付近に家具を置かない
- 本棚はしっかりと固定し、中身が飛び出さないようにする
- 重いものは下に入れる

玄関・廊下

- 玄関と廊下には物を置かず避難口を確保する

家の外

- 屋根とアンテナを補強する
- 植木鉢やプランターが落ちないようにする
- ブロック塀を補強する

☑ 備蓄品を準備しよう

公的な援助が受けられるまで地震発生から3日かかるといわれています。最低限必要な備蓄品を各家庭で準備しておきましょう。

目安は3日分

- 食料** 簡単に食べられるインスタント食品や缶詰、レトルト食品などの保存食を準備する。
- +**
- 水** 1人1日3ℓの飲料水が必要といわれています。家族の人数に合わせてペットボトルなどを用意。
- +**
- トイレ** 断水時でも使えるトイレを用意。凝固剤を使用したトイレパックや新聞紙とゴミ袋でも代用可。
- +**
- 各個人で必要な物** 眼鏡、常備薬、入れ歯、アレルギー対応の食料品など。



500mlのペットボトルが日常使いにも、備蓄品としても便利

非常持ち出し品リスト

- <左記に加えて>
- 血・コップ(紙・プラスチック)
 - 帽子・ヘルメット
 - 洗面用具、タオル
 - ティッシュ、ウエットティッシュ、マスク
 - 常備薬(おくすり手帳)
 - 携帯ラジオ(予備電池含む)
 - 懐中電灯(予備電池含む)
 - 携帯電話の充電器
 - 軍手
 - ビニール袋
 - 筆記用具、メモ帳
 - 現金(小銭含む)
 - 身分証明書

地震発生中



☑ 地震発生！最初にすべき3つの安全行動

大地震から身を守るための行動の基本は、緊急地震速報を受信したり、揺れを感じたら、すぐに安全な空間に移動して、「DROP(姿勢を低く)」、「COVER(頭、体を守る)」、「HOLD ON(揺れが収まるまでじっと待つ)」の行動を取ること。この安全行動は、屋内でも屋外でも同じです。倒壊しそうなものから離れ、姿勢を低くしているだけで、けがをする確率が減ります。



☑ 状況別の安全行動を確認しよう

家の中

- 転倒の恐れがある家具から離れる
- クッションや座布団など身近なもので頭を守る
- 丈夫な机の下などに身を隠す



- ガラスの破片などでけがをしないように靴を履いて行動する
- 屋外には、落下物が多いので慌てて外に飛び出さない

- 家の中に閉じ込められないようにドアを開けて出口を確保する



オフィス

- 書類棚やロッカーなどから離れて身を守る
- キャスター付きのコピー機は動き回る危険があるので、離れた場所に移動して身を守る



路上

- かばんなどで頭を守る。リュックを背負い、上着で頭を覆うのもよい
- 繁華街などでは、看板や外壁など、特に落下物の危険性が高いので、なるべく建物から離れる



- ブロック塀、自動販売機は、崩れたり倒れてくる恐れがあるので素早く離れる
- 倒れそうになった電柱や垂れ下がった電線には近づかない
- 地割れや陥没した場所には近づかない



スーパーマーケットやデパート

- 陳列棚から離れ、柱や壁際に身を寄せる
- バッグや買い物かごをヘルメット代わりにして頭を守る
- エレベーターは絶対に使用しない
- 係員の指示に従う



エレベーターの中

- 揺れを感じたら、すべての階のボタンを押し、停止した階で外に出る
- 閉じ込められてしまったら…
 - 無理に脱出しようとするしない
 - 非常ボタンやインターホンで連絡を取り、救助を待つ
 - 救助が来るまでに時間がかかる場合があるので、しゃがんで体力の消耗を防ぐ



電車の中

- 立っている場合は、手すりやつり革などにしっかりつかまり、姿勢を低くする
- 座っている場合は、前屈みになって手で頭をおおい、腰から足に力を入れる
- 乗務員の指示に従い、勝手に車外に出ない



車の運転中

- ハンドルをしっかり握り、急ブレーキはかけず、徐々に速度を落とす
- 交差点などには停車せず、道路の左側や広場などに停車し、エンジンを止める
- カーラジオなどで情報を確認する



- 緊急車両の通行の妨げになるので、車での避難は行わない
- 車を離れる際は、窓を閉めドアロックはせず、キーを付けたままにする
- 離れる時間、連絡先のメモを残す
- 車検証や貴重品は忘れずに持っていく



地震発生後

✓ 火の始末をしよう

大きな揺れの最中は、無理に火を止めたり、消火をせず、まずは身を守ります。揺れが収まったら素早く火を止めてください。



✓ 正確な情報を集めよう

災害発生時には、さまざまな情報が飛び交うことが予想されます。デマに惑わされず、正しい情報を入手しましょう。

- 自治体からの情報やラジオなど信用性の高い情報入手する
- 集める情報は、被害状況、電車の運行状況などの交通情報、家族の安否確認



災害用伝言ダイヤルを利用する

- 災害発生時に被災地への通信が増加し、つながりにくい状況になった場合にサービスが開始される声の伝言板
- 171にダイヤルしガイダンスに従って録音・再生を行ってください

✓ 帰宅、避難をする前に

外出先で被災すると、交通がまひして帰宅が困難になります。正確な情報を収集して、冷静に行動しましょう。

むやみに移動しない

- 二次災害にまきこまれないようにする

職場や避難スペースにとどまる

- 時間差で帰宅する
- 自宅が職場や学校から遠い場合は翌日以降に帰宅する

駅周辺には立ち寄らない

- 人が滞留し、身動きができなくなる可能性がある

安全に帰宅する

- 幹線道路や道幅の広い道路を選ぶ
- 同じ方向に帰る人たちと協力し合う

事前の対策

- 帰宅ルートなどを事前に確認しておく
- 職場に宿泊・帰宅グッズを用意しておく

- 簡易食品 ・ 飲料水
- スニーカー ・ 地図
- 携帯ラジオ ・ 雨具 ・ 懐中電灯
- 携帯電話充電器 ・ タオル
- 動きやすい服

